

伊勢市内の再編（統合、学びの継承）に関する協議について

1 令和6年度の協議について

今年度の協議を進めるにあたっては、これまで協議してきた「15年先を見すえた高校の学びと配置のあり方」に関する考えを大切にしながら、令和13～15年度までに迎える断続的な学級減への対応について、「伊勢市内の高校の再編」と「小規模校のあり方」等の視点をふまえ、より具体の対策について協議を進めていく。（第1回提案）

2 前提

(1) 県立高等学校活性化計画（R4～R8）

- 平成29年度から地域の協力を得て取組を進めてきた3学級以下の小規模校活性化の検証結果、令和2年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にある。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。これらについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議することとし、協議が必要となる地域に協議会がない場合は同様の場を設けるものとする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- 1学年3学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- 入学者が2年連続して20人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止とすることとする。

(2) これまでの協議のまとめ（令和5年度の協議（今後の学びと配置のあり方について）より）

（基本的な考え方）

- 当協議会は、少子化が一層進む中、当地域の高校の活性化について、令和4年度にまとめた「現在の9校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」、「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本として対応する」をふまえ、スケジュール感に注意して協議を重ねていきます。

（専門学科・総合学科について）

- 各学科・コースの学びの選択肢はできる限り維持することが望ましい。
- 当地域における総合学科のあり方や活性化について議論が必要。

（普通科について）

- 進学や就職など多様なニーズに応える普通科の学びの機会を確保していく必要があり、このことについては、引き続き、通信制高校のサテライト教室の設置や遠隔授業の活用などの方策を幅広く議論することが必要。
- 進学ニーズに応える普通科高校は、各教科に配置できる教員数を勘案すると1学年8学級規模が望ましい。また、地域全体の学級数が減少する中、やむを得ず学校規模を縮小する場合も、1学年6学級を下回らないよう一定規模を維持することが望ましい。

（部活動）

- 部活動の活性化の視点から1学年4学級以上が望ましい。

(1 学年 1～2 学級の小規模校について)

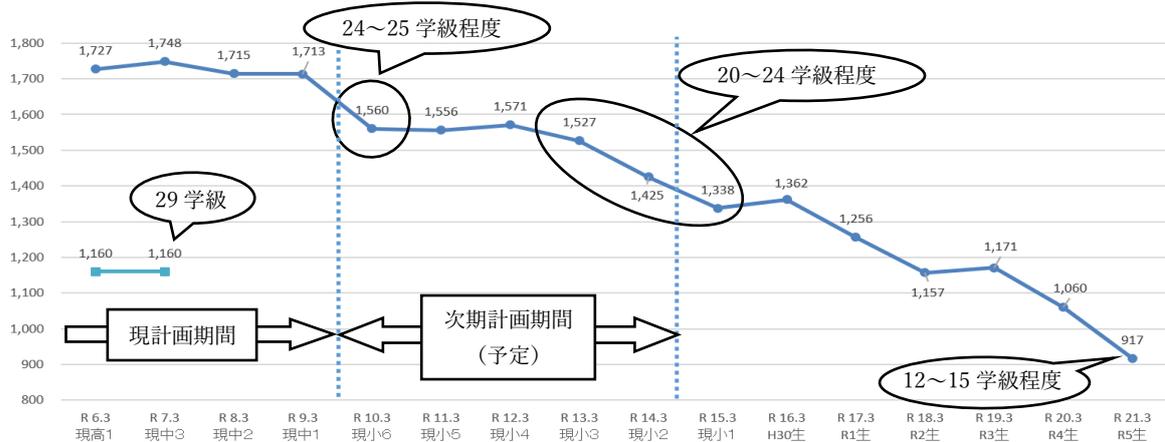
- 1 学年 1 学級となる学校では、教科指導の充実や部活動の活性化がより厳しくなることが想定されますが、地域全体で学校を支えながら、小規模校のメリットを生かして、できる限り子どもたちに魅力ある学びを提供していく必要がある。
- 令和 6 年度に 1 学年 1 学級となる 3 校の役割や教育実践を注視しながら、引き続き、地域全体の活性化を協議する中で、小規模校の統合も含めた今後のあり方について議論を進める必要がある。
- 現計画では、他の高校では担うことが難しい県内唯一の学科を有する水産高校について、引き続き、活性化に取り組むとされています。一方で、令和元年度以降 5 年連続して欠員を生じており、特に地域外からの入学者の増加に向けたさらなる取組が必要。

(今後の協議の進め方)

- 専門高校間の統合など、大規模な施設・設備の整備が必要となる統合については、工期の確保はもとより、予算やそれにつながる学校のコンセプトの議論に係る時間も必要となるため、遅くとも 4 年前までには結論を出す必要がある。
- 「現在の 9 校の配置のままでは当地域の高校生に必要な学びを提供していくことが難しいことから、統合も含めた活性化が必要」、「専門学科の学びの選択肢や普通科の一定規模の維持を基本として対応する」を基本として協議を進める。
- 現在の協議が令和 9 年度からの次期計画につながることも意識しながら、これからの子どもたちのための伊勢志摩地域の学びと配置のあり方について協議を重ねていく。

(3) 伊勢志摩地域の現状

		R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3	R 13.3	R 14.3	R 15.3
		卒業	卒業	現中3	現中2	現中1	現小6	現小5	現小4	現小3	現小2	現小1
伊勢市	卒業生数	1,126	975	1,028	997	1,020	966	897	945	899	862	787
	前年度対比	44	-151	53	-31	23	-54	-69	48	-46	-37	-75
	R6.3対比			53	22	45	-9	-78	-30	-76	-113	-188
度会郡	卒業生数	337	311	318	294	293	262	270	268	284	238	250
	前年度対比	22	-26	7	-24	-1	-31	8	-2	16	-46	12
	R6.3対比			7	-17	-18	-49	-41	-43	-27	-73	-61
鳥羽市	卒業生数	122	106	119	111	98	94	106	85	98	81	91
	前年度対比	-21	-16	13	-8	-13	-4	12	-21	13	-17	10
	R6.3対比			13	5	-8	-12	0	-21	-8	-25	-15
志摩市	卒業生数	340	335	283	313	302	238	283	273	246	244	210
	前年度対比	1	-5	-52	30	-11	-64	45	-10	-27	-2	-34
	R6.3対比			-52	-22	-33	-97	-52	-62	69	-91	125
小計	卒業生数	1,925	1,727	1,748	1,715	1,713	1,560	1,556	1,571	1,527	1,425	1,338
	前年度対比	46	-198	21	-33	-2	-153	-4	5	-44	-102	-87
	R6.3対比			21	-12	-14	-167	-171	-156	-200	-302	-389



学級減への対応方針 決定時期 (めど)	令和 10 年度分	令和 13 年度分
	令和 7 年度	令和 10 年度

※大規模な施設・設備の整備が必要となる統合については、遅くとも 4 年前までには結論を出す必要がある。

伊勢市内の再編（統合、学びの継承）に関する協議について

(1) 令和7年度と令和21年度の総学級数

① 令和7年度

伊勢志摩地域 29学級										総合学科												
伊勢 ⑦					宇治山田 ⑤					志摩 ①		①		職業系専門学科 ⑭					水産 ②		鳥羽 ①	
普通科・普通科系専門学科 ⑭										職業系専門学科 ⑭												

② 令和21年度

伊勢志摩地域 12～15学級															南伊勢														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

(2) 伊勢市内の再編について

伊勢市内5校
24学級

普通科・普通科系専門学科 ⑫												職業系専門学科 ⑫																	
伊勢 ⑦						宇治山田 ⑤						伊勢工業 ④						宇治山田商業 ④						明野 ④					

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----

18学級

検討時のポイント

- 当協議会のまとめ
基本的な考え方、学校規模など
- 学科の構成
普通科・普通科系専門学科と職業系専門学科をどのような割合で配置するか
- 学校の役割や教育実践
多様なニーズにどのように応えるか
- 再編（統合、学びの継承）のタイミング
どの段階で再編の必要性が生じるか
- その他
学科の改編や、新しい学びのかたちの導入など